

城と史蹟を歩く会第12回「川越城と蔵の町を歩く」ご案内資料

<日時> 平成14年5月12日(日曜日)9時20分～16時30分ころ

<主要行程> 八幡宿7時07分(京葉快速直通前の方乗車)東京51分着、開会式(京浜東北線赤羽8時55分(⑧番線埼京川越線)川越9時33分着、47分発(バス①番線100円)本川越駅前—仙波東照宮—喜多院—日枝神社—富士見櫓跡—三芳野神社—川越城本丸御殿—大手門跡—札の辻—蔵造りの家並み—時の鐘—菓子屋横町(自由行動、駅集合)川越16時20分、赤羽、東京經由、八幡宿19時ころ着

山岸 弘明

1) 川越と川越城

- ①川越=はじめ河肥、河越と書く。3方を囲んで曲流する入間川の渡河に由来したものだろう。
- ②中世川越城=15世紀中ごろの長祿元年、太田道灌築城。当時は後の本丸と2の丸だけの小規模な城。道灌は江戸城に移り川越は扇谷上杉氏の居城と変わるが、のちに小田原北条氏が進出する。
- ③近世川越城=天正18年豊臣秀吉の関東攻めで徳川氏の所領となり、寛永大火後、松平信綱が3の丸、外郭、新郭を増設するなど、江戸城北西の要めとしての形態を整えた。代々の城主は酒井忠勝、堀田正盛、柳沢吉保、松平直克ら幕府の重臣が並んで城の格式を物語っている。
- ④土の城=川越城は関東地区のほとんどの城と同じ土の城。石垣も天守閣もない。

2) 仙波東照宮

- ①往時は喜多院の一部。日光、久能山と並ぶ3大東照宮の1つ。
- ②元和3年いったん久能山に埋葬された徳川家康の遺骨は、幕府の政治顧問でもあった喜多院・天海僧正の主張で日光廟への移葬が決まる。途中当地で4泊、法要が営まれた。跡地に寛永10年創建、直後の川越大火で焼失するが、3代将軍家光の幕命で再建された。
- ③隋身門=国指定重要文化財。寛永17年造立。切妻造りトチ、銅板葺き、3間1戸8脚門。隋臣と後水尾天皇勅額と伝わる神額はない。石鳥居=寛永15年、造営奉行で家光の腹臣で当時の川越城主、堀田正盛奉納。明神鳥居。空堀=東照宮を巡る。喜多院は川越城の外郭でもあった。葵紋石灯籠=元禄15年、5代将軍綱吉の寵臣で当時の川越城主、柳沢吉保寄進。
- ④拝殿、幣殿=重要文化財。寛永17年造立。入母屋造り、銅板葺き、桁行3間、梁間2間、正面に向拝。幣殿を接続。三十六歌仙を描いた土佐光信の板絵額を飾るが見えるか?
- ⑤唐門、端垣=重要文化財。平唐門は本殿の正面入口。透塀。
- ⑥本殿=重要文化財。寛永17年造立。3間社流れ造り、向拝。銅瓦葺き。極彩色、各部に金箔や華麗な飾り金具が。

3) 喜多院

- ①天台宗関東総本山。通称川越大師、正式寺名は「星野山無量寿寺喜多寺」
- ②平安はじめ創建という。慶長4年、徳川家康の信任厚い天海僧正が中興。家康は寺領500石を寄進した。天海は秀忠、家光も補佐して幕政に多大な影響力を誇った。
- ③寛永15年、川越大火で焼失。家光が江戸城の建造物を客殿、書院、庫裡として寄進した。
- ④鐘楼門と梵鐘=重要文化財。入母屋造り、袴腰つき。梵鐘は元禄12年銘銅鐘。
- ⑤慈眼堂=重要文化財。宝形造り3間堂。木造天海僧正(慈眼大師)像を祀る。
- ⑥松平大和守墓所=後期川越城主家門松平越前前橋藩⑤朝矩、⑥直恒、⑦直恩、⑧齊典、⑩直候5代の墓碑。顕彰碑、五輪塔。朝矩、直恒は市原の八幡村、君塚村など8か村も所領とした。
- ⑦慈恵堂(本堂)=県指定文化財。寛永16年建造。入母屋屋根、銅板葺き。桁行9×梁間6間。厄除けの慈恵大師を祀る。
- ⑧職人尽絵=重要文化財。狩野吉信筆。当時の職人の風俗を知ることができる。
- ⑨客殿=重要文化財。桁行8×梁間5間。入母屋屋根こけら葺き、渡廊付き。旧江戸城紅葉山慶長期移築建造物。内部は6室に分かれ奥12畳半の上段の間は家光誕生の間という。床、違棚。襖、壁に金地に狩野探幽の墨絵山水画、格天井に花模様。将軍の来訪はなかったが御成御殿とされた。
- ⑩書院=重要文化財。江戸城移築建造物。寄棟屋根、こけら葺き。桁行6×梁間5間、一部中2階。家光の乳母春日局化粧の間という。
- ⑪庫裡=重要文化財。江戸城移築建造物。入母屋、寄棟屋根、銅板葺き。桁行10×梁間4間。一部2階建て。小玄関、式台と3室。柱が太く武家屋敷の玄関構えを思わせる。
- ⑫多宝塔=県指定文化財。寛永16年。本瓦葺き3間多宝塔。
- ⑬五百羅漢=江戸中期天明2年発願、50年後の文政8年完成。全535体、同じ像はない。
- ⑭山門=重要文化財。寛永9年、唯一川越大火免れる。けやき造り、切妻造り四脚門。
- ⑮番所=県指定文化財。むくり破風造り、瓦葺き。江戸後期のもの。

喜多院



本堂



山門



五百羅漢



龍田



↑多宝塔 ↓客殿、書院



↑家光誕生の間

←天海僧正

4



川越駅前



仙波東照宮
← ↓

3) 川越城富士見櫓跡

- ① 城の南端、田郭から城内へ。水道浄水場一帯が田郭だが土塁や濠も破壊され市街化がすすんでいて城地としての景観はない。
- ② 本丸濠跡=道路と凹地が濠跡を物語っている。道路の内側は本丸跡。一般民家も。
- ③ 富士見櫓跡=城内最大の櫓で天守閣に替わる御三階櫓がおかれた。関東のほとんどの城と同様、石垣も天守閣もなかった。土壇に上る。御三階櫓はあえて天守閣とよばない。譜代諸侯が江戸城外郭としての心意気を示したものだろうか。御三家の水戸城以下、佐倉、古河、関宿城なども御三階櫓。飾り破風のない質素な三重櫓だが現存はない。通常武器庫で施錠、藩主も一生に1、2度しか立ち入ることはなかったという。

4) 三芳野神社

- ① 平安はじめ大同2年の創建。のち菅原道真を祀る。
- ② 太田道権時代城の鎮守とし、徳川家康が朱印20石を寄進、江戸時代を通じて川越歴代城主に崇敬された。
- ③ 童謡「とうりゃんせ」の舞台。寛永時代、城内に練り込まれて一般の参詣は年に一度の祭礼だけになった。いくつもの城門をくぐって本丸近い。帰り道を間違えたら大変「怖いながらもとうりゃんせ」となった。
- ④ 拜殿、幣殿、本殿からなる権現造り社殿。屋根入母屋造り銅板葺き。朱塗り、飾り金具、黒漆塗りなど安土桃山時代の壮麗な建築様式を伝えている。

5) 初雁公園(昼食)

- ① 初雁公園=本丸一帯の公園で県の指定史蹟。初雁の杉は三芳野神社神社背後にあった古杉。カリが飛来するたびに必ず止まって3声鳴いたというがすでにない。
- ② 現在地は本丸濠跡。後方の高台は本丸土塁でかつて櫓も置かれた。

6) 川越城の概要(その歴史と構造)

- ① 歴史=前出
川越夜戦=太田道権の後、扇谷上杉氏の居城であったが北条氏綱が攻めて支城とした。天文14年、扇谷上杉氏は山内上杉、足利晴氏と組んで奪回戦に出る。北条綱成以下3千は完全包囲されたが守り抜き、かけつけた北条氏康が夜襲をかけて撃退した。
- ② 歴代城主=別掲。幕府は江戸城の東北の要として徳川一門、譜代重臣を配置した。
酒井忠勝=3代将軍家光期の老中、大老。政治顧問。死後は遺命により4代家綱を補佐した。
堀田正盛=家光の寵臣で首席老中。寛永期の幕政の中心となり、家光に殉死した。
松平信綱=家光、家綱期の老中。才知に富んで信任も絶大。知恵伊豆として知られた。
柳沢吉保=5代将軍綱吉期の老中、大老格。綱吉と桂昌院の信任をえて文治政治を推進した。
松平直克=幕末期の政治総裁にすすむが、領内では一揆が多発、分領の前橋に城地を移した。
- ③ 寛永期の城主、松平信綱時代に整備された近世平城。
敷地面積およそ5万坪。4重の水濠に囲まれ、本丸、2の丸、3の丸、中郭、追手郭、天神郭、帯郭、田郭の8郭からなる。かつて本丸御殿をめぐって富士見櫓、虎櫓、菱櫓などを配し、城門も12を数えた。現存の本丸御殿は全体の4分の1にも満たないが川越城の歴史をしるしをのびせる。
- ④ 明治維新後、一時川越県庁を置くが入間県に合併。明治5年廃城。本丸御殿家老詰所など建物は払下げ、取り壊されたが、本丸御殿は公会所、専売局、武道館などに使用されたので一部が残った。城地は川越市役所、川越高校、初雁中学校、第1小学校、市営球場と一般民家や商店に変わり、ほとんどが破壊された。

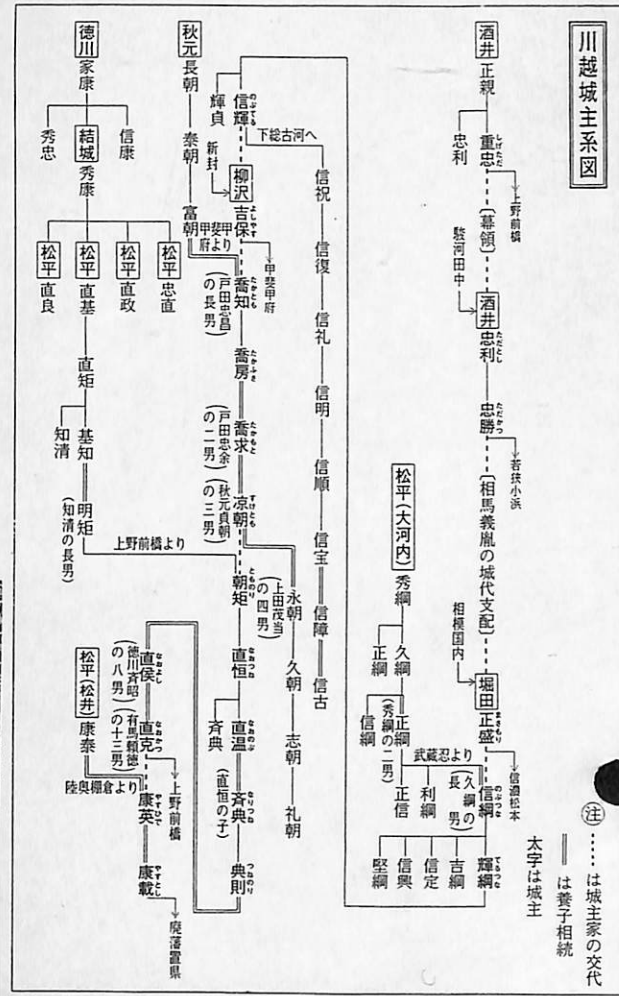
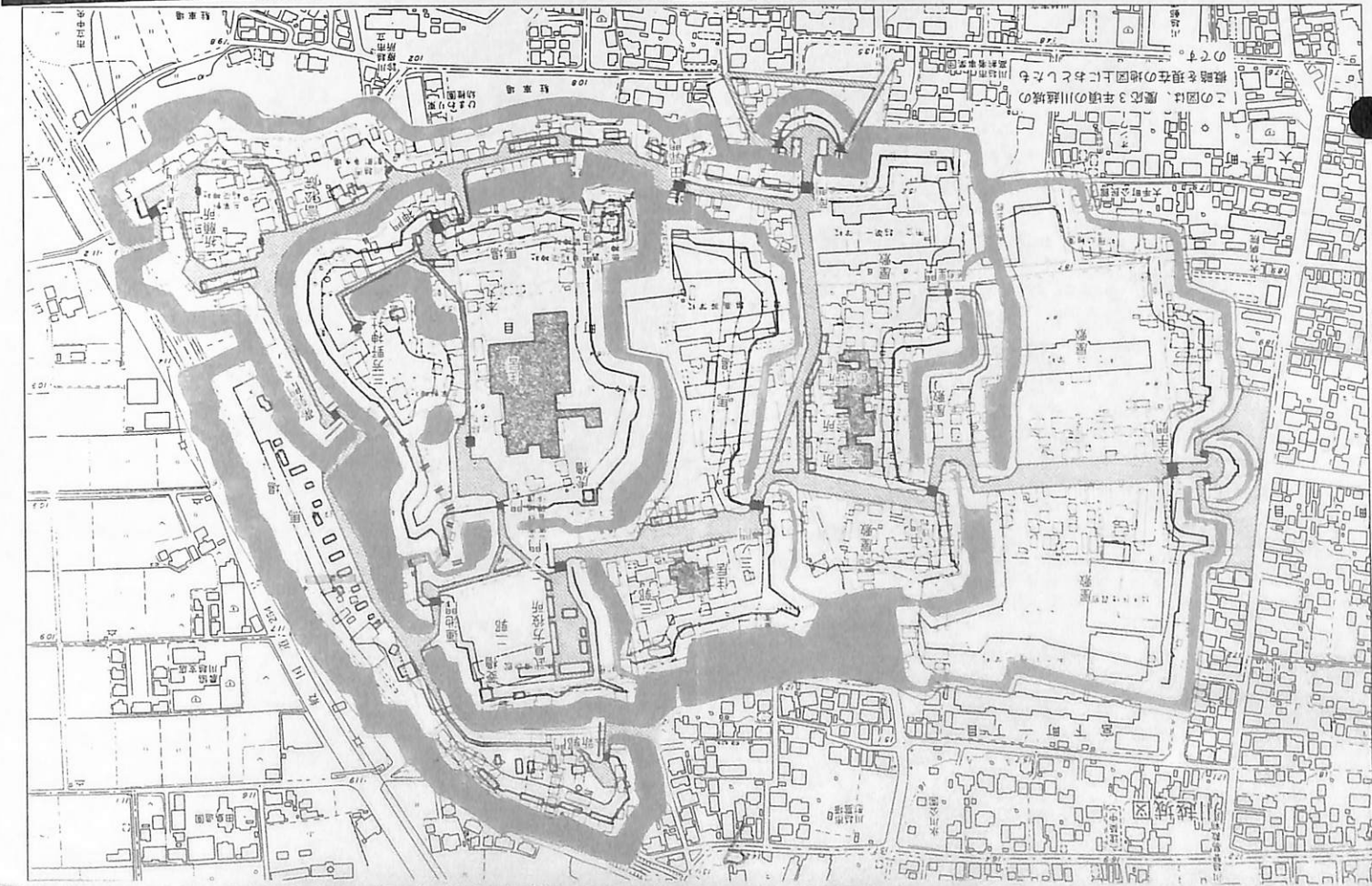
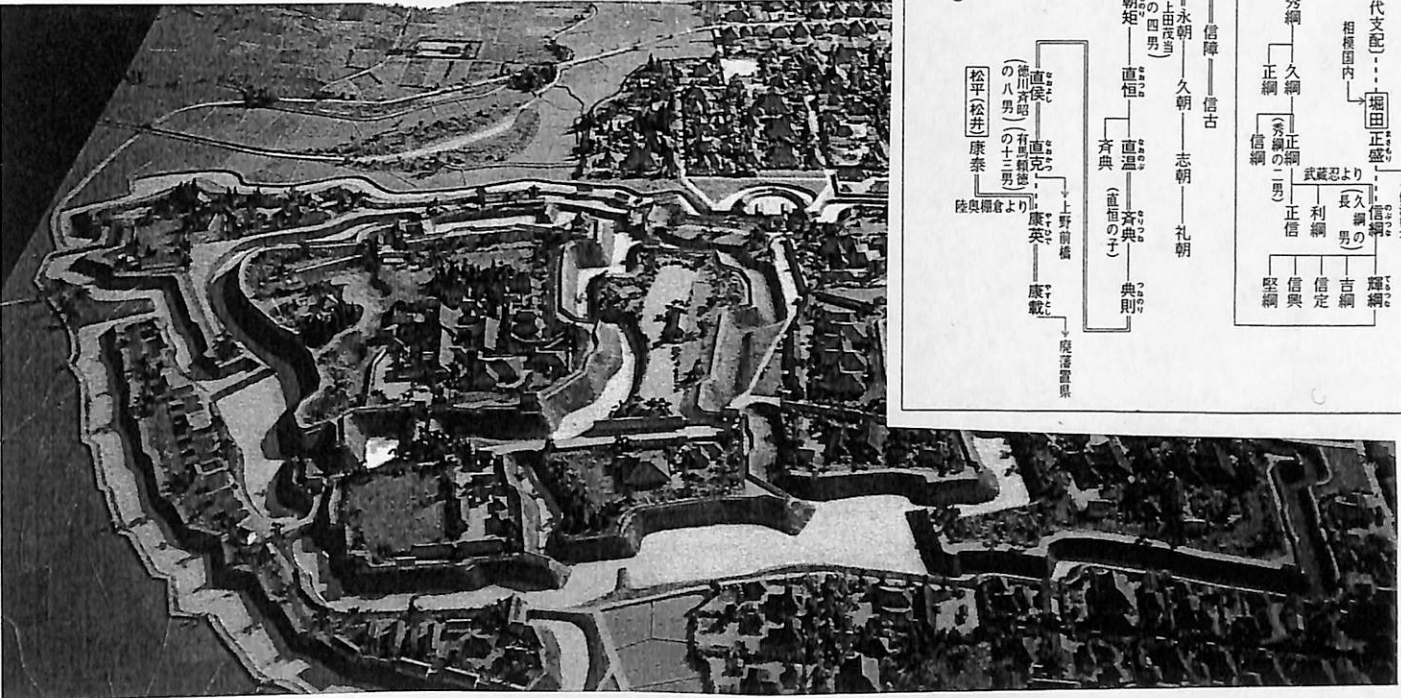
↓ 富士見櫓跡 →



三芳野神社



↑ 大手門社と太田道権像



注: ...は城主家の交代
太字は城主
一は養子相続



7) 川越城本丸御殿(現存)、家老詰所(復元)

- ①江戸後期嘉永元年造営の本丸御殿の一部、玄関部分と家老詰所などが現存、公開。全国に2の丸御殿はあるが本丸御殿は高知城と2城しか現存しない。
- ②桁行19間×梁間4間、屋根入母屋造り、棧瓦葺き、正面に2間の大唐破風玄関
- ③大唐破風玄関。霧よけ(車寄せ)、式台。
- ④大広間、使者の間、使番詰所、槍の間
- ⑤家老詰所=明治維新後上福岡市内に移築、旧地に復元。重職詰所の現存は大変めずらしい。

8) 2の丸、3の丸、外郭

- ①城内2の門、3の門を横切って大手門跡へ。
- ②2の丸=2の門。武具方役所、菱櫓。現在は川越市立博物館
- ③3の丸=3の門。3の丸御殿、馬場。川越高校、民家中郭=中門、衆判所、会所、郡代所、上級藩士邸。川越第1小学校、民家
- ④追手郭=上級藩士邸。川越市役所、市民体育館、初雁中学校、川越小学校

9) 大手門跡

- ①太田道權像=川越城、江戸城築城者。15世紀室町中期の武将。関東管領上杉定正に仕え、武功をたてて主家の興隆をはかったが中傷をうけて定正に暗殺された。
- ②大手門碑=川越市役所前大手濠に大手門が置かれた。両袖を土塁、白壁で囲んだ櫓門?
- ③馬出し=城門前の防御土塁。前面に水濠を配した丸馬出し。戦時は馬を潜ませ一気に繰り出した。

10) 札の辻、蔵造りの家並み

- ①札の辻=高札場跡で城下の盛り場。
- ②蔵造りの家並み=一番街から仲町にかけての道路両側に続く。新河岸川の水運によって江戸への物資供給地として栄え、小江戸といわれた名残。現存建物は明治の大火以後のものだが、かつての江戸の佇まいを彷彿させる。
- ③大沢家住宅=土蔵作り店蔵の代表的家屋。元藩御用商人西村半右衛門家で大正年間に大沢家が購入した。2階建て切妻造り、瓦葺き、間口6間、奥行4間で前面に庇がある。数少ない江戸時代、寛政4年建立の国指定重要文化財。
- ④蔵造り資料館
明治26年建築。店蔵に続いて住宅棟があり、明治時代の生活の様子を垣間見れる。入館料100円。希望者はこの後の自由行動で立ち寄ってください。

11) 時の鐘

- ①城下に時刻を知らせた鐘櫓。高さ16m。家並みを圧してそびえる眺めは城下町川越のシンボル。
- ②江戸はじめ(寛永ころ?)から。火災など度々建て替えられ、現在のものは明治27年、梵鐘には川越鑄物師矢沢四郎左衛門改鑄の銘がある。
- ③毎日6、12、15、18時を知らせているが現在はコンピューターの機械突き。

12) 一応解散、自由行動

- ①自由行動=蔵造りの家並み、菓子屋横町を覗きながら思い思いに出発点のJR川越駅へ。川越駅まで徒歩だと30分かかります。途中、図示任意のバス停から川越駅行きバスを利用してください。
- ②集合時間厳守。遅れた方はゆっくりお食事して帰られるものと判断してお待ち致しません。

13) 菓子屋横町

- ①養寿院の門前町が起源。菓子製造は明治、最盛期の昭和はじめは70店舗を数えたという。
- ②多くの店が工夫を凝らした駄菓子などを製造、販売している。おみやげにどうぞ。

14) JR川越駅(集合)

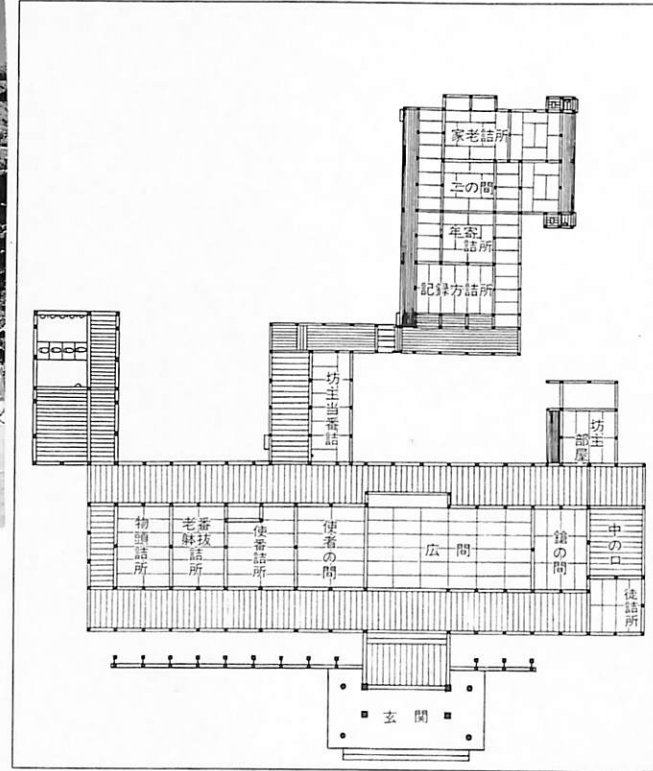
- ①川越16時20分発乗車、往路の逆に赤羽、東京経由、八幡宿をめざします。
- ②次回予告
6月6日(木曜日)第13回「牛込見附と後楽園周辺を歩く」詳細は予告編を参照ください。

以上

川越城本丸御殿入館券



↑ 本丸御殿

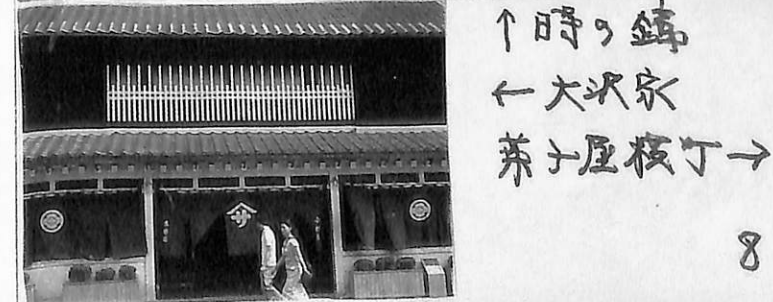


現存する本丸御殿平面図



← 家老詰所

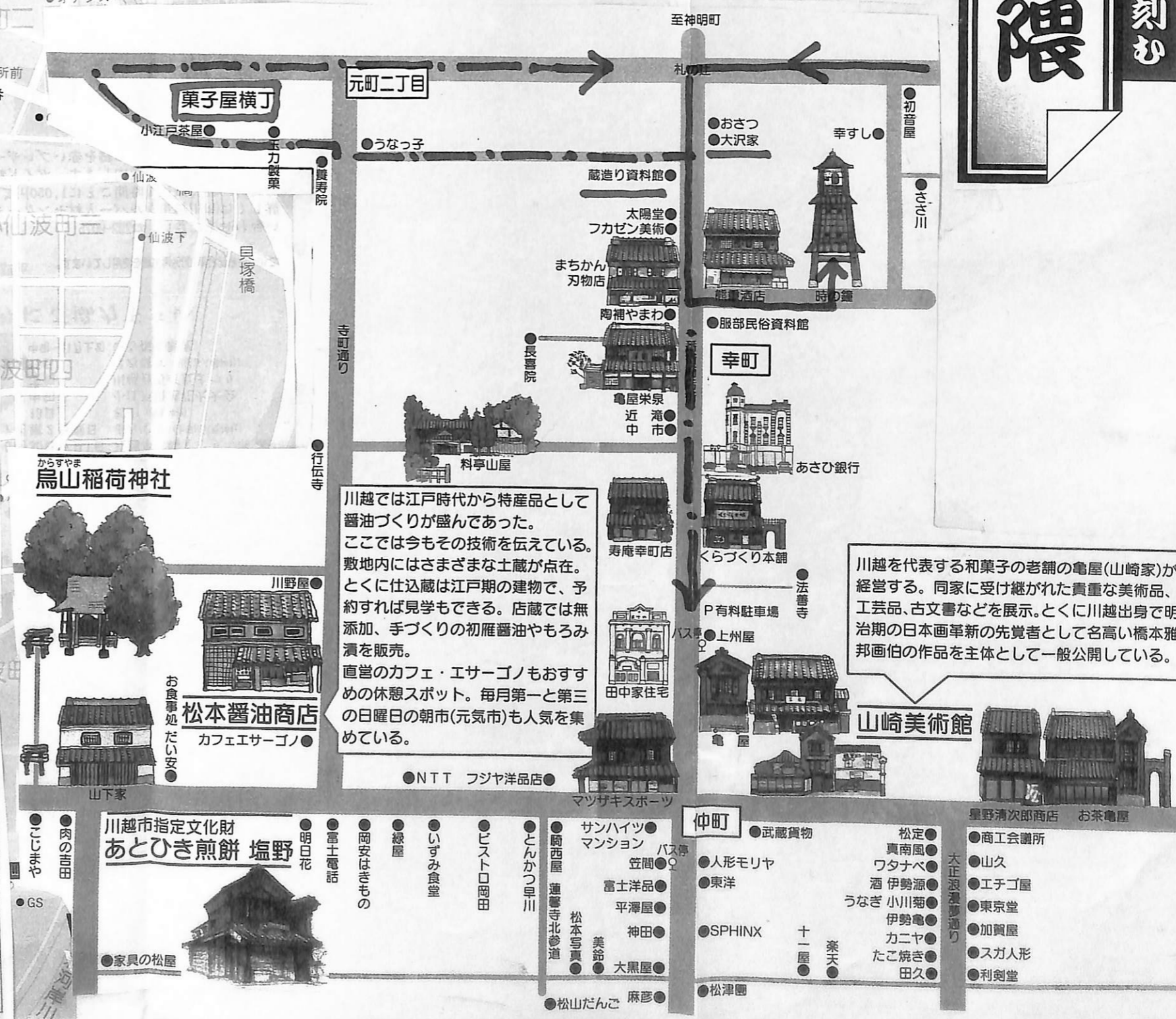
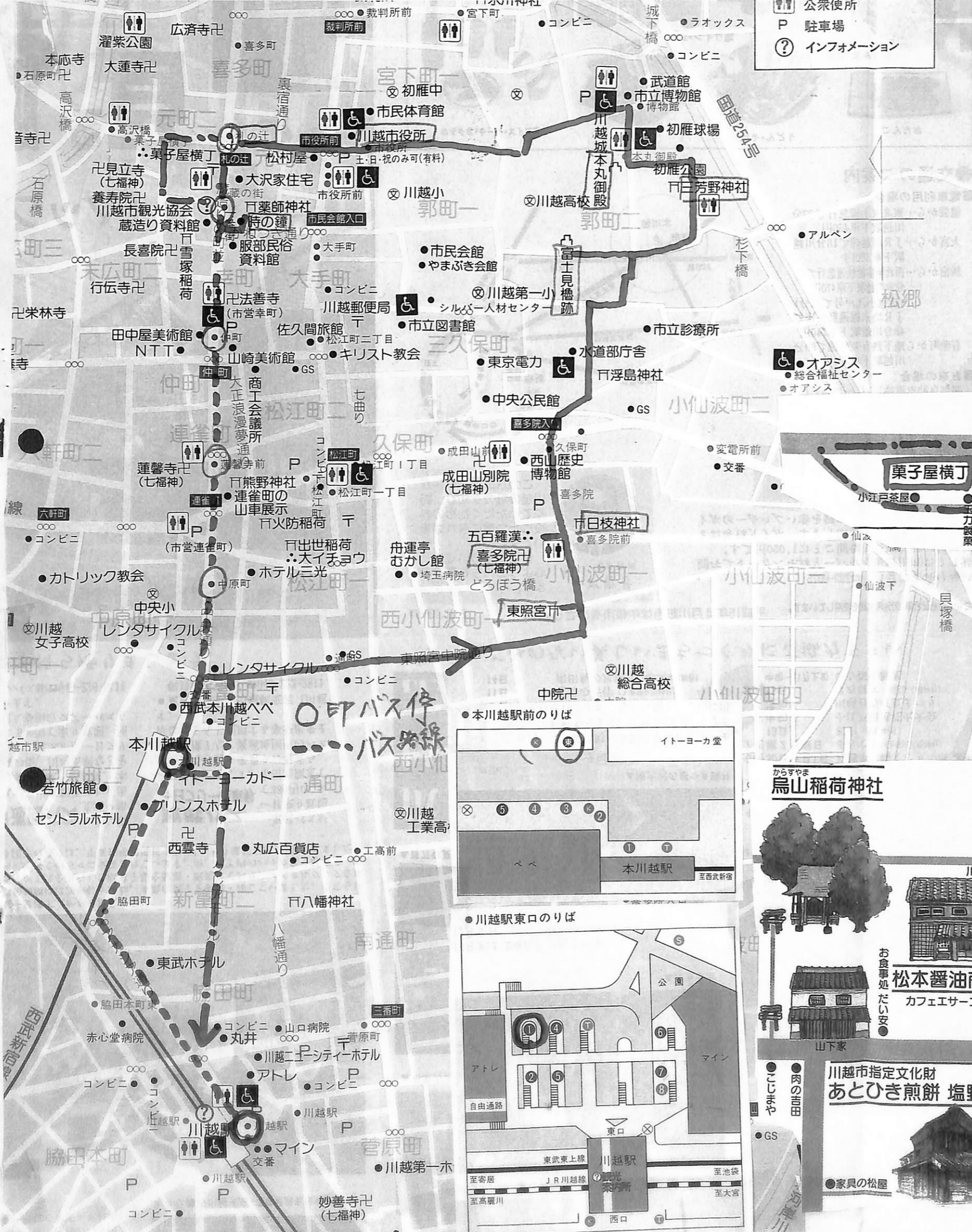
↓ 本丸御殿大広間 →



今なお、古き良きものが時を刻む

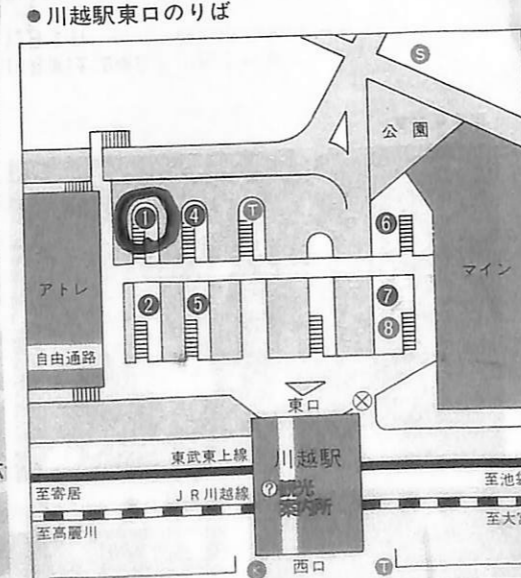
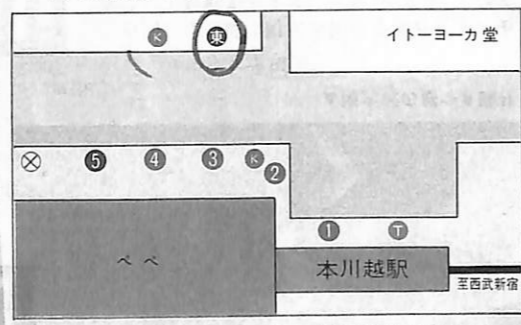
仲町界隈

仲町界隈を歩いてみると、そこちこちに小江戸の残照が脈打っている。
川越の多くの蔵造りが明治二十六年の大火後の建築であるのに対して、松本家や山下家などは江戸期の外観構成と意匠形態を保持する。さらに蔵造りとは味わいの異なる古い町屋も点在する。
お稲荷さん烏山神社の大ケヤキがそよぐと、ここからも懐かしい醤油の香りがたたく。横丁の生け垣や夕陽に染まった藁にも、江戸や明治、大正が静かに時を刻んでいる。そして、昭和や平成までの新旧が見事なハーモニーを奏でている。
たしかに、ここには、心いやす空間がある。



川越では江戸時代から特産品として醤油づくりが盛んであった。ここでは今もその技術を伝えている。敷地内にはさまざまな土蔵が点在。とくに仕込蔵は江戸期の建物で、予約すれば見学もできる。店蔵では無添加、手づくりの初雁醤油やもろみ漬を販売。直営のカフェ・エサーゴノもおすすめの休憩スポット。毎月第一と第三の日曜日の朝市(元氣市)も人気を集めている。

川越を代表する和菓子の老舗の亀屋(山崎家)が経営する。同家に受け継がれた貴重な美術品、工芸品、古文書などを展示。とくに川越出身で明治期の日本画革新の先覚者として名高い橋本雅邦画伯の作品を主体として一般公開している。



烏山稲荷神社
お食事処 たい安
松本醤油商店
カフェエサーゴノ
山下家

川越市指定文化財
あとひき煎餅 塩野
●家具の松屋

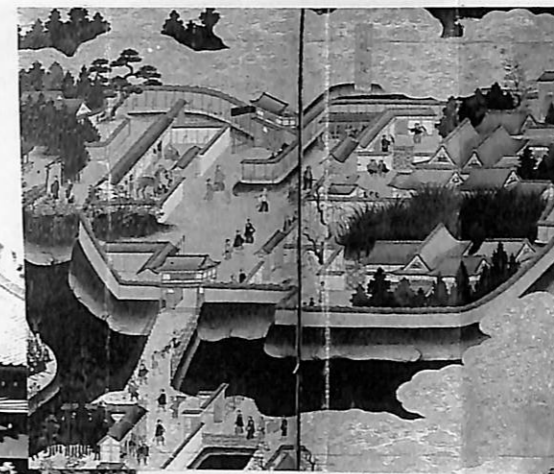
- 山崎美術館**
- 武蔵貨物
 - 人形モリヤ
 - 東洋
 - SPHINX
 - 松山だんご
 - 松定
 - 真南風
 - ワタナベ
 - 酒 伊勢源
 - うなぎ 小川菊
 - 伊勢巻
 - カニヤ
 - たこ焼き 田久
 - 星野清次郎商店
 - お茶亀屋
 - 商工会議所
 - 山久
 - エチゴ屋
 - 東京堂
 - 加賀屋
 - スガ人形
 - 利剣堂

城と史蹟を歩く会第12回「川越城と蔵の町を歩く」予告編

5月12日(日曜日=変更注意。予備日は18日)

往路=八幡宿7時07分(京葉快速直通1両目乗車)東京51分着、開会式(京浜東北線)赤羽8時55分(⑧番線埼京川越線)川越9時33分着、47分発(バス①番線100円)本川越駅前
復路=川越16時20分、赤羽、東京経由、八幡宿19時ころ着

- 主なコースとみどころ JR切符=ホリデーパス(2040円)
受付時に参加費+喜多院、川越城見学科1,000円を徴収します。
- ①川越=江戸城の北西の守りとして重臣、譜代を配した川越城下町と川舟運の河港として発展、小江戸と呼ばれるほど繁栄した。今なお落ち着いた蔵造りの家並みに城下町の雰囲気を残している。
 - ②仙波東照宮=日光、久能山と並ぶ3大東照宮。日光移送中の家康の遺骨を4日間とどめて法要。権現造り建造物は寛永17年幕命建造の国指定重要文化財。
 - ③喜多院=平安時代の創建だが、27世天台僧正が家康の厚い信頼をえて栄えた。寛永大火後の再建で江戸城から家光誕生の間と春日局化粧の間を移築、現存する唯一の江戸城將軍家建造物。重要文化財。慈恵堂、客殿、庫裡、多宝塔、書院、山門、五百羅漢、松平家墓所など見所が多い。
 - ④日枝神社=国家鎮護、政治安定の神。もと喜多院の鎮守社で明治の廃仏棄釈で独立。重要文化財だが覆屋に囲まれみえない。赤坂日枝神社の元社。
 - ⑤土見櫓跡=城内最大の櫓で天守閣に替わる御三階櫓。関東のほとんどの城と同様、石垣も天守閣もなかった。土壇に上る。
 - ⑥三芳野神社=童謡「とうりゃんせ」の舞台。城内に練り込まれて一般の参詣は年に一度の祭礼。帰り道を間違えたら大変。怖いながらもとうりゃんせ。
 - ⑦川越城=江戸城と同じ太田道権の創建。扇谷上杉、北条氏をへて天正18年から徳川氏の所領に。寛永大火後、松平信綱が城域を拡大、江戸城の北西の要め老中城としての形態を整えた。代々の城主は酒井忠勝、堀田正盛、柳沢吉保、松平直克ら幕府の重臣が並んで城の格式を物語っている。
 - ⑧本丸御殿=江戸後期嘉永元年造営の本丸御殿のうち玄関、式台、大広間、家老詰所などが現存、公開されている。2の丸はいくつかあるが本丸御殿は高知城とここだけ。大唐破風玄関に往時を偲ぶ。
 - ⑨大手門跡(川越市役所前)=城内2の門、3の門を横切って大手門跡へ。太田道権像と大手門碑。門は馬出し形式だが遺構は残っていない。
 - ⑩札の辻、蔵造りの家並み=札の辻は高札場跡で城下の盛り場。一番街から仲町にかけての道路両側に蔵造りの家並みが続く。新河岸川の水運によって江戸への物資供給地として栄え、小江戸といわれた名残。現存建物は明治の大火以後のものだが、かつての江戸の佇まいを彷彿させてくれる。
 - ⑪時の鐘=寛永時代、酒井忠勝建造だが、現在の鐘櫓は明治27年の再建。川越のシンボルとして毎日6、12、15、18時を知らせている。
 - ⑫菓子屋横町=今も残る養寿院の門前町が起源。菓子製造は明治から盛んで、最盛期は昭和はじめの70店舗、多くの店が工夫を凝らした駄菓子などを製造、販売している。
 - ⑬自由行動=蔵造りの家並み、菓子屋横町を覗きながら思い思いに出発点のJR川越駅へ。復路は赤羽、東京経由、八幡宿をめざす。



←川越城
大手門跡
宮土見櫓跡→



五百羅漢

↓三芳野神社



→天海僧正



←喜多院



誕生の間



↑東照宮

喜多院

菓子屋横町↓ 0436-92-2239山岸 時の鐘と蔵造りの家並み↓

